

## あとがき

『建築論研究』の初刊にあたる本号は、主題を「建築論とは何か」とし、5人の建築論研究者がそれぞれの立場から、その問いに応えたものである。

日本における建築論の嚆矢である森田慶一は、「建築論」を「建築とは何か」という問いに応えることであるとしている。この定義を前提とすると、「建築論とは何か」という問いの課題は、「建築とは何か」という問いをさらに根源に遡って問い直すことになる。それは、「建築について考える」というそのことはどのようにして可能なのか」という増田友也による問いを契機に「建築論の論」として、その領域が押し広げられたところでもあるが、換言すれば、建築の領域外の学問への着眼から、新たに「建築」の枠組みを再規定する試みでもある。

つまり、「建築論とは何か」という問いは、従来の建築学の領域外にあたる学際的領域との関係の中から一層深く広がりのある新しい「建築論」を再構築する試みとして初発の問いであり、今後開拓の余地のある「建築論」のさらなる展開が期待されたところで切り出された希求の問いである。『建築論研究』は、このような視野の広がりのもと、これまで他分野とされてきた学問と積極的に関わりながら、次のステージの「建築論」を構築していく礎の標になることを目標としている。今後は、西洋で2000年、日本で100年にわたる「建築論」の蓄積を踏まえ、さらにその問いを深め進展させていきたいと考えている。

(文責 西村謙司)